

タイトル：2021年度 教育セミナー（第17回）

日時：2021年9月16日（木）～19日（日）

オンライン開催

「アズハル・モスクと15世紀カイロ都市社会一滞在者・聖域性・王朝による介入の観点から」

漆 光（早稲田大学大学院文学研究科）

私は2021年度の中東☆イスラーム教育セミナーに参加するとともに、初日の最初に70分間で現在行なっている研究の内容について発表させていただきました。2021年度は昨年度に続きオンラインでの開催となりましたが、そのような状況下でも大変実りのあるセミナーとなりました。以下、今回参加をしてみたの感想を述べたいと思います。

まず私自身の研究発表については、今後避けては通れない学会などでの発表に向けた、大変良い経験となりました。本セミナーは、学会と同様に第一人者の先生方が参加されていたり、その先生方を前にして発表するというのはプレッシャーを強く感じ、セミナー全体における最初の発表ということと相まって大変緊張いたしました。また、これまでのゼミ内での発表とは異なり、全く違う分野の研究をされている先生・院生の方々にどのように自身の研究の要点・重要性を伝えるのかについても、試行錯誤しなくてはなりません。今回の経験を活かして、今後あると思われる発表の機会ではより分かりやすく、かつ内容の濃い発表を行いたいと思います。

そして先生方の講義、他の院生の方々の発表についても大変有意義なものでした。先生方の講義については、発表内容について多くの学びがあるのはもちろんのこと、先生方の中にはどのようにして現在関心を持っているテーマに辿り着かれたのかという「個人の研究史」を話された方もいたり、そのような等身大のお話は現在進行形で悩んでいる私にとって勇気づけられる部分も多々ありました。他の院生の方々の発表については、1年生の方の発表が多く、卒論を発展させた内容を話される方が多かったと思いますが、どの発表もそうとは思われないほどに興味深く、私もこの方々に追いつかなくてはと刺激を受けました。ただ、私個人の反省として、他の方々の発表の際の質問を的確かつ簡潔に出来なかったということがありました。今回そのために他の方々に質問の機会が周らなかったということもあったと思うので、今後は要点を短く、かつ質問する方に資するような質問を心がけたいと思います。

本セミナーの公式プログラムとは別に設けられたオンラインでの懇親会は、コロナ禍で最も失われてしまった他大学との交流の機会の重要性を再確認する場でありました。個人での研究が多い人文系研究者にとって隣接分野の研究をしている仲間存在は大きなものであり、今回知り合った院生の方々とは今後も交流を続け、切磋琢磨できればと思います。

最後になりますが、このような状況下でも開催へ向けた準備をして下さいましたAA研の

先生方、講師の先生方と千葉様、私の拙い発表に対して質問して下さいました方々に御礼申し上げます。また、この感想文を読んでいる院生の方々も、もし迷われているようでしたら、本セミナーに参加、さらには発表されてみてはいかがでしょうか。